

フルハーネス

本製品には、ランヤードは付属しておりません。別途お買い求めください。その際には「2(サ)」を参照いただき正しい使用をお願いします。
(一部の仕様でランヤードのセット品もございます。セット品をお買い上げの場合は併せて同封のランヤードの取扱説明書をご覧ください。)

この度は墜落制止用(フォールアレスト)器具 A種 フルハーネス型をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品は建設現場、土木工事現場、鉱山及び採石場、電柱、鉄塔などの電気通信線の工事現場、製造現場、製造設備、建築物、構造物などで、2mを超える高所において、作業者の墜落による危険を防止する業務用の「墜落制止用器具」です。このフルハーネスをご使用になる前に必ず説明書をお読みいただき、十分にご理解の上で使用ください。特に△危険△警告△注意の項目については、必ずお守りください。尚、この取扱説明書は大切に保管し必要に応じてすぐ確認のできるように管理ください(紛失された場合は当社までご請求ください)。

必ずお読みください

- ◆ 本製品は墜落制止時の衝撃を分散して、体への負担軽減を目的に設計されていますが、より安全にお使い頂く上で胴ベルトの併用をお願いしております。骨盤周りに装着した胴ベルトを本製品の胴ベルト接続部分と連結頂くことで、より墜落制止時に股間で発生するであろう衝撃の緩和が行われます。尚、胴ベルトは墜落制止用器具の規格に適合しているものをご使用ください。
- ◆ 取扱説明書をよく読み、使用方法がわからない場合は当社にお尋ねください。命を預ける大切な器具です。やさしく取り扱うよう心がけると共に、日々の始業前点検、使用後のメンテナンスを必ずお願いします。
尚、一度大きな荷重の掛かった場合は部品の再利用も含めて使用をお止めください。

1. 用途



警告

- (ア) 本製品は、高所作業者の墜落制止以外の用途には絶対に使用しないでください。
- (イ) 本製品は墜落制止用(フォールアレスト用)です。ワークポジショニングや移動等に使用する製品をお求めの場合は、別途 関連付属器具をお買い求めください。
- (ウ) D環等を追加してワークポジショニング用に改造したものはフォールアレスト用としての規格に対して不適合品となります。
- (エ) 墜落制止用器具用ランヤードにはA種フルハーネス型、タイプ1及びタイプ2と、B種胴ベルト型があります。衝撃を吸収する「ショックアブソーバ」部分に以下の項目が記載されています。内容を確認し用途にあった方法で組み合わせてご使用ください。
- ① 種類(型式)にはフルハーネス型専用、胴ベルト型専用、フルハーネス型・胴ベルト型兼用の明記がなされています。
 - ② ショックアブソーバの種類には、使用方法に応じて、第一種、第二種の種類が表示されています。
 - ③ ショックアブソーバの使用可能な質量が明示されています。質量は作業者の体重と装備品の合計を示します。
 - ④ 最大の自由落下距離とは、ショックアブソーバが正常な機能を示す距離のことです。
 - ⑤ 標準的な使用状況の下で使用した場合の落下距離とは、墜落制止可能な最大距離を示しています。
 - ⑥ 巻取り式ランヤードの場合には、性能表示として、ロック機能の有無、巻取り力停止可能な有無が表示されています。使用条件に応じてお選びください。

2. 使用方法



危険

(ア)~(ク)



注意

(ケ)~(テ)

- (ア) 使用前には必ず「4.点検と廃棄の基準」の点検項目に従って使用前点検を行ってください。
- (イ) 「5.墜落制止用器具 各名称」を参照し、安全上必要部品が揃っていることを確認してください。
- (ウ) 使用中に異常に気付いた場合は、直ちに使用を止め、再点検を行ってください。
- (エ) ご自身での修理・改造は絶対にお止めください。
- (オ) 屋外に放置しないでください。
- (カ) 正常な作動を保証できる温度範囲(-10℃~50℃)以外では使用しないでください。
- (キ) フルハーネス型、胴ベルト型とも、正常に機能させるため、体への装着においては、緩みなく確実に装着していることを確認してください。
- (ク) フルハーネス型のランヤードの接続環位置については、両肩甲骨の中間位置になるように取り付けてください。
- (ケ) 「1.用途(エ)」に関して以下の使用条件を考慮して使用してください。
- ① 種類(型式)に関しては、フルハーネス型専用、若しくはフルハーネス型兼用の表示のあるランヤードを用いてください。胴ベルト専用や、関連補助器具は使用しないでください。
 - ② ショックアブソーバには種別が2種類存在します。
 - i. 「第一種」の表記ランヤード
最大の自由落下距離が2.3m以下である場合に使用できます。
 - ii. 「第二種」の表記ランヤード
最大の自由落下距離が4.0m以下である場合に使用できます。
- 本製品は第一種、第二種、両方のランヤードに適合していますが、使用されるランヤードによって作業環境が異なります。用途にあったランヤードを使用してください。
- ③ 本製品は100kgの試験体でのテスト合格品です。作業者の体重に装備品を加えた合計が100kgを超えていないことを確認してください。
 - ④ 最大自由落下距離は、ショックアブソーバの性能を十分に発揮する事が可能な落下距離の最大値です。フルハーネス型と胴ベルト型では性能に差が発生しますので接続する製品の形状に合わせた内容で確認ください。この自由落下距離を超える使用方法は衝撃吸収を含め重篤な身体への障害が考えられますので絶対にお止めください。
 - ⑤ 標準的な使用の下で使用した場合の落下距離は、本製品にフルハーネス型専用及びフルハーネス型兼用ランヤードを用いた場合に想定される墜落距離を確認ください。使用者は、この数値を上回る高さでの作業を常に行う場合において使用できます。高さにおいて不明な点がある場合は必ず作業責任者の指示を確認した上で使用してください。
 - ⑥ 巻取り式のランヤードは性能の異なる巻取り器が存在しますので、使用場所を考慮してお選びください。
 - i. **ロック装置性能**
 - a) 墜落時にロック機能が作動してストラップが全て繰り出すことなく装着者を保持する装置を有する性能のことです。ショックアブソーバカバーに表示されています。
 - b) 基本的には墜落時に巻き取られていたストラップの長さの1/2の長さ以下で繰り出しが停止するように設計されています。
 - c) より安全性を求める場合、ロック装置性能を有したランヤードを用いることで、⑤で示している、標準的な使用の下で使用した場合の落下距離を短くすることが可能になり、墜落距離の低減や衝撃の緩和に大きな効力を示します。ただし使用方法や環境によってその距離は異なりますので、低所での使用の場合は、安全ネット等の安全対策を含めた作業環境をよく検討し、作業責任者と相談の上使用してください。
 - ii. **巻取り力停止能力**
 - a) 任意の位置で巻取り力を停止させる機能を備えた巻取り式ランヤードのことです。ショックアブソーバカバーに表示されています。
 - b) 作業時の常時発生する引き戻し力を緩和する機能です。

- c) こまめな解除を心掛け、なるべく作業に必要な長さ以上のストラップの引き出しを保持しないでください。
 - d) 不必要な長さを繰り出した位置で巻取り力を停止すると、作業中の絡まりの原因になるだけでなく、万が一の墜落時の墜落距離を無用に伸ばす危険性があります。
- (コ) 毎回使用前には「4.点検と廃棄の基準」に基づき点検を行ってください。
- (ク) 製品の性能は同一メーカー製での組合せ試験による数値に基づいて保証されています。他社製品との併用を望まれる場合は個々の性能表示をよく読んでご自身の責任の範囲で行うか、当社にご確認をお願いします。
- (シ) 体側取り付け部について着脱可能な構造のものは、そのコネクタの口部分が完全に閉じており、解除レバーが完全に作動していることを確認してください。
- (ス) 装着後使用しない時はフックを環に掛け、または収納袋に収める等により、ロープ/ストラップ部が垂れ下がらないようにしてください。
- (セ) 墜落距離を少しでも少なくすることは衝撃を減少させます。フックはできる限り高い位置に取り付けて安全にご使用ください。
- (ソ) 取り付け箇所は装着者の可能な限り、墜落した場合に振子状態になってしまわない位置に設けてください。
- (タ) コネクタ(フック・カラビナ)環類は中心部に引張荷重試験を行うことで性能の保証を行っております。曲げ荷重が発生する使用方法や、外れ防止装置のみへの外力発生のような使用方法については適合していません。
- (チ) 回し掛けは、コネクタ(フック・カラビナ)に横方向の曲げ荷重を受けさせたり、取り付け設備の鋭角部での応力集中によって破断したりする等の問題を生じさせますのでできる限り回避できる使用方法をお選びください。
- (ツ) ランヤードのロープ/ストラップ部がねじれた状態や結束された状態で大きな衝撃が発生すると破断・裂孔の危険性がありますので、使用中はねじれや結束を解消してご使用ください。
- (テ) ショックアブソーバ部分に回し掛けフックが掛かった状態で使用するとショックアブソーバが機能しない場合が考えられますのでご注意ください。

3. 選定の基準



注意

- (ア) 墜落制止用器具、フルハーネス型
- ① ショックアブソーバの最大の自由落下距離(4m)とショックアブソーバの最大の伸び(1.75m)の合計値に1mを加えた高さ(6.75m)を超える箇所での作業には、フルハーネス型を使用してください。
 - ② フック位置が腰より低い場所になる場合、ランヤードはA種タイプ2を使用してください。
- (イ) 墜落制止用器具、胴ベルト型
- ① 建設作業における一般的な使用条件(ランヤードの取り付け高さ85cm、ランヤードをハーネスに取り付ける背面環の高さ145cm、ランヤード長1.7m、ショックアブソーバ(タイプ1)の最大伸び1.2m)にフルハーネスの伸び1mを加えた目安高さ5mに対して、これを下回る高さでの作業について胴ベルト型の使用が認められています。
 - ② フルハーネス型は、墜落制止の瞬時に発生する衝撃及びその後の保持時における体へのダメージを、胴ベルト型と比較すると大幅に軽減します。作業条件を確認して適切な器具をお選びください。
 - ③ 胴ベルト型にショックアブソーバがタイプ2のランヤード使用は認められておりません。タイプ2のランヤードを選択する作業の場合はフルハーネス型をご使用ください。尚、タイプ2の作業については「3(ア)①」及び「3(ア)②」を参照いただき、正しい作業高さでご使用ください。
- (ウ) 2丁掛けについて
- ① 移動時を考慮し、フック掛け替え時の墜落を防止するため、2丁掛を推奨します。
 - ② フルハーネス型で2丁掛けを行う場合は2本とも墜落制止用ランヤードを使用してください。
 - ③ フルハーネス型の用いるランヤードの種類は作業状況を考慮してタイプ1、タイプ2のいずれかをお選びください。
 - ④ 胴ベルト型で2丁掛けを行う場合は主ロープとして作業に使用するものについては墜落制止用ランヤード(タイプ1)を使用してください。
 - ⑤ 胴ベルト型で2丁掛けの副ロープとして、墜落制止用ランヤード(タイプ1)以外に補助ロープの使用が認められています。ただし補助ロープは、主ロープに墜落制止用ランヤードが使用されていることが条件となり、主ロープ側ランヤードのフックを掛け替える時のみに使用するものとされています。正しい使用方法をお願いします。
 - ⑥ 補助ロープはショックアブソーバを含まないものも含め、移動時のみで作業時に使用しないことを条件に1300mm以下の長さのものをお選びください。
- (エ) 関連付属器具について
- ① フルハーネス型において関連補助器具に分類される補助ロープ等は使用が認められておりません。主ロープとしてはもちろん、副ロープも墜落制止用器具のランヤードを用いてください。
 - ② 1300mm以下の長さの補助ロープは関連付属器具に該当します。胴ベルト型において移動等における利用として、補助ロープとしての使用は認められていますが、あくまでも補助ロープは墜落制止用ではありませんので、主ロープとしての使用はお止めください。
 - ③ ワークポジショニング用器具は体を固定する効果はありますが、万が一墜落をした場合にそれを制止するためのバックアップとして墜落制止用器具の使用が義務付けられています。墜落制止用器具を入手後、補助ロープを構造物に回し掛けしたり、D環部を胴ベルトに追加加工したり、体の姿勢を預けるような構造に改造することは、用途的に墜落制止用器具ではなくなるだけでなく、摩耗や傷の原因となり、本来の機能が阻害されますのでお止めください。

4. 点検と廃棄の基準



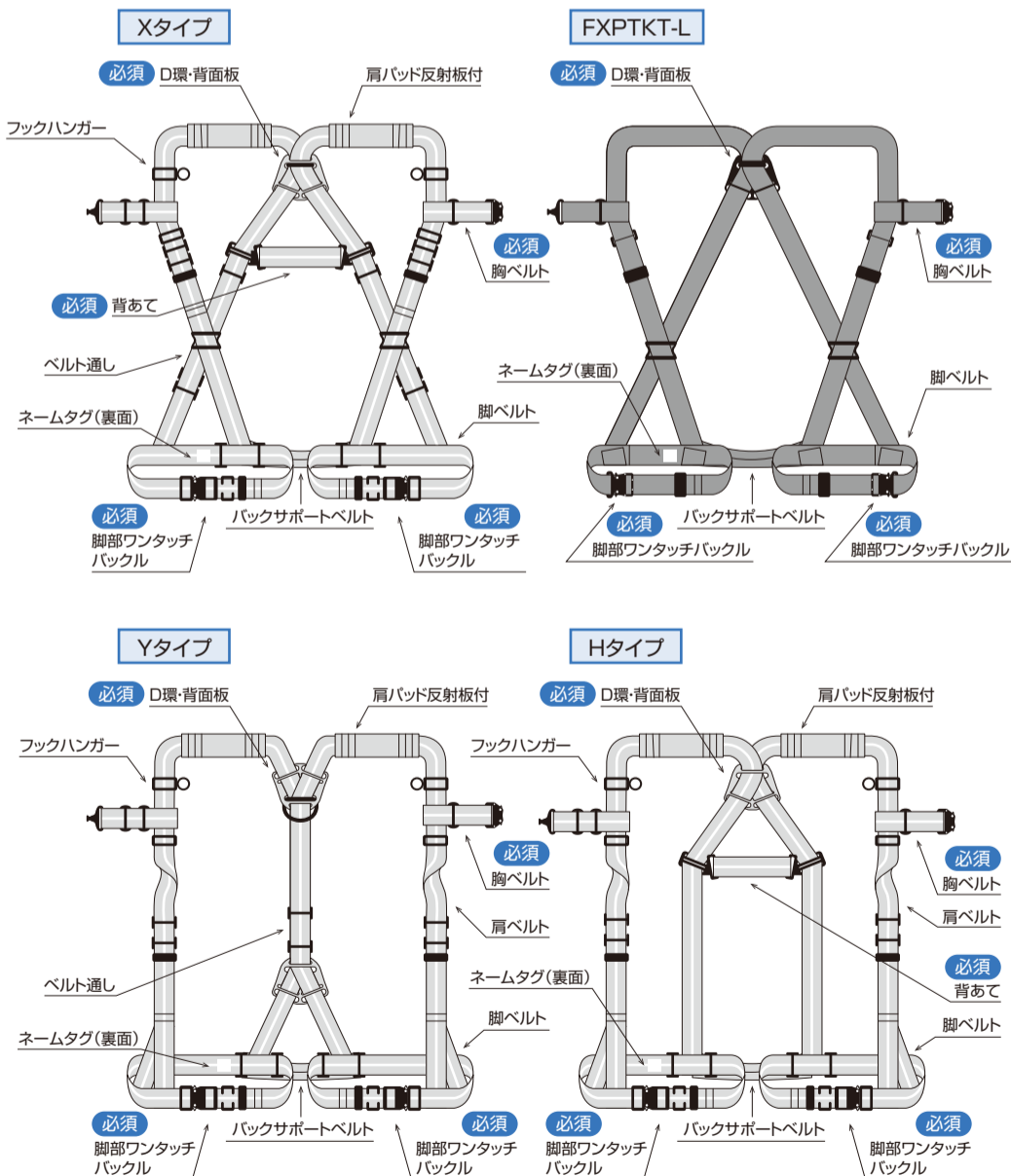
警告

- (ア) 日々の始業前、終業後の点検を行い、一つでも該当するものがあれば、直ちに使用を中止してください。
- (イ) 定期点検は半年を超えない範囲で第三者立会いのもと実施してください。
- (ウ) 使用開始から一年を経過しているロープ/ストラップ部及び工具ホルダー等を装着しているベルト部については摩耗も確認を行ってください。
- (エ) 一般的にフルハーネス型の肩及び腿ベルト、胸ベルト型の胸ベルト使用可能期限は3年です。また、ランヤードのロープ部分の使用可能期限は2年です。紫外線等による劣化は目視できませんので使用可能期限を超えての使用はお止めください。

点検箇所・項目	点検方法と破棄基準	始業点検	終業点検	定期点検
ベルト部	ベルトの摩耗、傷、ねじれ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	薬品類による変色・硬化・溶解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	塗料付着による硬化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
縫製部	縫糸の摩耗、切断、ほつれ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	縫糸の摩耗、切断、ほつれ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ワンタッチバックル	損傷、紛失	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ベルトの噛合部が摩滅して、腹部に力を入れたらベルトが緩むもの 錆または腐食	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
環類	損傷、錆、変形、紛失	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	損傷、錆、変形、紛失	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
D環取付部	損傷箇所 ベルトに3mm以上の傷・擦り切れがあるもの	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

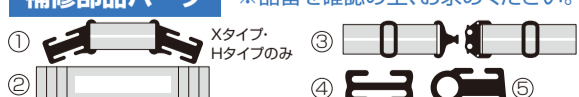
5. 墜落制止用器具 各部名称

※形状は一例です。



補修部品パーツ

※品番を確認の上、お求めください。



- ① 背あて …… HX-BSS (シルバーのみ)
- ② 肩パッド …… HX-SP
- ③ 胸ベルト …… HX-CSO (シルバーのみ)
- ④ 緩み止め環アルミ …… HX-YDA
- ⑤ フックハンガー …… HX-FH

上記図解の中で取り外した状態で使用してはならない安全上の部品については **必須** という表記で示してあります。必須 部材の使用前の有無を十分に確認し、不足している場合は使用を取りやめ、部材の確保、若しくは使用の中止をお願いします。

6. 装着方法



注意

各調節部分は十分に身体に合うよう調節し、ゆるみのないよう確認して下さい。緩み止め環で着くずれが無いよう最終チェックをして下さい。



D環を背中に背負うようにして、肩ベルトに腕を通します。

脚ベルトは、指2本程度のゆとりを持たせたパラレル型に長さを調節し、ワンタッチバックルをしっかり固定します。表裏の差込に間違いのないように黒色側が表になるよう差し込んでください。

胸ベルトのバックルを連結してください。胸ベルトが胸の高さにならない場合、一旦取り外し、調整取付位置を調整してください。

各ベルトのねじれや緩みがないか、バックルがしっかり固定されているかを確認してください。

※ランヤードは背中D環に確実に取り付けられていることを確認してください。

ハーネス装着動画

基陽のYouTubeチャンネルで装着動画がご覧いただけます。

YouTube



7. 必ずお守りください



危険



警告



注意

- (ア) 分解や改造はお止めください。
- (イ) 製品に当初から付属のコネクタ(フック・カラビナ)環類を取り外したり、新たに自身で購入した部材を接続したりするといった改造行為は絶対に行わないでください。
- (ウ) ロープ/ストラップ部のご自身での編み込みや縫製は絶対に行わないでください。
- (エ) ランヤードのコネクタ(フック・カラビナ)は抜けたり外れたり、墜落制止時の衝撃で壊れたりしない、堅固な構造物に取り付けてください。
- (オ) ランヤードのロープ/ストラップ部が切断されるおそれのあるような、鋭い角に触れないようにしてください。
- (カ) 斜めの構造物など、墜落時にコネクタ(フック・カラビナ)がずれる箇所に取り付けしないでください。
- (キ) 墜落時に人体が床面に接触しない位置にコネクタ(フック・カラビナ)を取り付けてください。
- (ク) コネクタ(フック・カラビナ)は解除レバーを握り、外れ防止装置が解除されたことを確認してから着脱してください。
- (ケ) 当て掛けと称する乱暴な取り扱いはお止めください。バネ部や可動部分の損傷を招き重大な事故を引き起こす危険があります。
- (コ) コネクタ(フック・カラビナ)を取り付ける際には、外れ防止装置を確実に閉じ、安全レバーが作動していることを確認してください。
- (サ) 低温時に凍結等でレバー類の作動不良が発生する場合があります。異常がないか確認を行ってから使用してください。
- (シ) コネクタ(フック・カラビナ)を腰の位置より低い箇所に掛ける場合は「3.(ア)②」の使用方法にある、(タイプ2)ショックアブソーバ表記のあるランヤードを使用してください。
- (ス) 一度でも大きな負荷の加わったものはその外観に変質が認められなくても十分な性能は発揮できません。使用を止めるとともに誤って再利用がされないよう処置をしてください。
- (セ) ワンタッチバックルは確実にロックされていることを確認の上ご使用ください。

8. 保管・手入れの仕方



注意

- (ア) 墜落制止用器具の保守・手入れは、責任者を定める等により確実に行うとともに管理台帳等にそれらの結果や管理上必要な事項を記録してください。
- (イ) 暗所で通気の良い湿気のない場所で保管してください。
- (ウ) ベルト、ランヤードのロープ/ストラップ部の汚れは、ぬるま湯を使って洗い、落ちにくい場合は中性洗剤を使って洗った後、よくすすぎ、直射日光に当たらない室内の風通しの良いところで自然乾燥させてください。
- (エ) ショックアブソーバ内部に水が浸透しないように留意ください。
- (オ) ベルト、ランヤードに塗料がついた場合は、布等でふきとってください。強度に影響を与えるような溶剤を使用しての洗浄は行わないでください。
- (カ) 金具類が水などに濡れた場合は、乾いた布でよく拭き取った後、さび止めの油を薄く塗ってください。
- (キ) 金具類の回転部、摺動部は定期的に注油してください。砂や泥などが付いている場合はよく掃除して取り除いてください。
- (ク) ランヤードのロープ/ストラップ部は墜落制止用器具の中で寿命が最も短いので、ランヤードのロープ等のみが摩耗した場合には、分解改造をしないで、ランヤード全体を交換してください。交換については推奨製品をお求めいただくか、当社までお尋ねください。
- (ケ) 保管場所
 - ① 直射日光の当たらないところ。
 - ② 風通しがよく、湿気のないところ。
 - ③ 火気、放熱体などが近くにないところ。
 - ④ 腐食性物質と同室でないところ。
 - ⑤ 粉塵の少ないところ。
 - ⑥ ねずみ等害獣の侵入がないところ。

9. 交換の目安



注意

- (ア) 一度でも落下等の大きな衝撃がかかったものは使用しないでください。
- (イ) 点検の結果、異常があったもの、摩耗・傷等の劣化が激しいものは使用しないでください。
- (ウ) 使用開始年月の記載を所定の場所に行い、部分品の取替が発生した場合は取替年月の記載も怠らないようにお願いします。
- (エ) 墜落制止用器具の各部の交換目安は以下の通りです。
 - ① ロープ/ストラップは紫外線照射による繊維強度の劣化から、2年を目安に交換をお勧めします。
 - ② それ以外の部分については3年を目安に交換をお勧めします。
- (オ) 交換時期はルールを定めて、第三者が確認し促進する仕組みをお願いします。

10. お客様相談窓口

この製品についてご不明な点がございましたらお買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。その際には製品に記載の製造番号をお控えになった上でお問い合わせください。

株式会社 基陽
KIYO CO., LTD.
TEL/0794-82-2304
FAX/0794-82-9462
Mail/info@kh-kiyo.com
〒673-0434 兵庫県三木市別所町小林477-10